

天明まちづくりセンターだより

発行/熊本市南区天明まちづくりセンター 〒861-4125 熊本市南区奥古閑町 2035 ☎096-223-1117 FAX096-223-3275

天明かかしまつり

11月14日より、国道501号沿いのたんぼにて、天明南園会主催の「かかしまつり」が開催されています。毎年、天明地域の地域おこしの一環として、「天明かかしコンテスト」が開催されていましたが、昨年はコロナウイルス感染拡大のため、中止となりました。そしてコロナ禍が続く今年も、コンテストに代わり、新たに「かかしまつり」が開催されることとなりました。展示期間は、令和4年1月30日までで、「コロナウイルス」をテーマに展示されています。毎年楽しみにされている方、今回初めてご覧になれる方、お近くを通り際には、ぜひご観賞ください。



天明地域市民のつどい 開催中止のお知らせ

天明地域自治協議会連合会による協議の結果、新型コロナウイルス感染症の収束の先行きが見えない中、地域の皆様の健康を最優先に考え、今年度も「市民のつどい」開催は、中止とすることとされました。開催を楽しみにしておられた皆様には誠に申し訳ございませんが、ご理解の程よろしくお願い致します。

避難行動に関するアンケート調査

天明地区（奥古閑校区、川口校区、銭塘校区、中緑校区）の全世帯を対象に、熊本市と熊本大学と共同で、避難行動に関するアンケート調査を実施します。

この調査は、津波・高潮被害における住民のみなさまの意識、行動を具体的に調査し、「適切な避難行動計画」に繋げることを目的としています。

アンケート実施後、調査結果を踏まえ、適切な避難行動について、住民のみなさまを対象としたワークショップ等を開催する予定です。

「命を守る行動」に繋げるために、アンケートへのご回答のご協力をお願いいたします。

ふるさとの鳥シリーズ(7) ハヤブサ



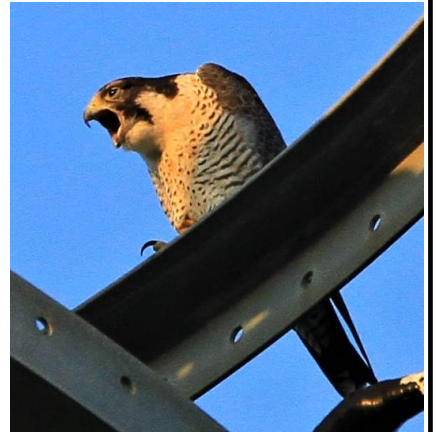
ハヤブサは、鳥類の頂点に立つ動物食の猛禽類である。餌は、主にスズメ、ハト、ヒヨドリ、ムクドリなどである。近年生息数が減少し、日本では希少野生動物種に指定されている。大きさはカラスよりひとまわり小さい。背中黒ずんだ褐色。腹部は少し黄ばんだ白色で、黒の横斑がついている。

鳥が好きな者にとっては、ぜひとも出会いたい鳥である。

以前天草(大江小)に勤務していた頃、地元の人と大ヶ瀬・小ヶ瀬や向辺田の磯に魚釣りに出かけた。その時切り立った断崖で、ハヤブサが子育てしているのをよく目にした。暑い中翼を広げて、巣を守っている姿が強烈に印象に残っている。また若い時、子どもたちと岳間溪谷(鹿北町)でキャンプをしたことがあった。その時ハヤブサが「ケーケーケー」と鳴きながら、飛んでいく姿を見たことがある。夏場は、海岸や山奥で子育てをしているようだ。

子育てがすみ、秋になると天明にもやってくる。冬、そして春先まで姿を見かける。令和3年のハヤブサが到来するシーズン(1月~4月)には、7回ほど遭遇することができた。

ハヤブサと一番遭遇する場所は、唐津の電波塔とその周辺である。電波塔は獲物を探しやすいし、下を通る獲物を上から滑降して襲うのに好都合である。電波塔の下には乾燥場がある。冬場はスズメがたくさん集まり、落ちている米や草の実をついばんでいる。



ドバトの群れも内田川の川べりで餌探しに一生懸命である。コガモも越冬にくる。また近くには千間塘がある。ここのハゼの木には、冬大陸から何千羽というアトリの大群が渡ってきて、乱舞する様を見せてくれる。東北(豪雪地帯)からニューナイスズメもやってくる。その他ヒヨドリ、キジバト、ムクドリ、セキレイ、カモなども集まる。鳥の宝庫である。

ハヤブサにとって、唐津の電波塔界隈は絶好の狩場である。天明には、ハヤブサが生息する環境が、まだまだ残っているのである。この環境を、これからも大事にしていかなければならない。

今年も稲刈りの時期になり、カメラをぶら下げ唐津塘を歩いた。夕日の美しさに見とれていると、一羽の鳥がふわりふわりと飛んできた。カラスの飛び方とは違う。「あっ ハヤブサだ」と気づき、慌ててシャッターを切った。赤い夕日の中に、尾を扇形に広げたハヤブサが、優雅に舞っていた。

【紹介者:白河部健さん】